

〔植栽環境に適した樹種の選抜に関する研究〕
スギ集団葉枯症被害地において出現した木本類

久保田将之・新井一司・奈良雅代
(緑化森林科)

【要 約】 スギ集団葉枯症被害地において出現した木本を調査したところ、ヒノキが樹種転換の際の候補樹種として考えられた。

【目 的】

東京都多摩地域の再造林地において、スギ褐色葉枯病と考えられる葉枯症状がスギの植栽木に発生している。この病害の発生は造林地の地形や土壌性質に影響されることが示唆されており、対策のひとつとして被害地における樹種転換が考えられる。本研究では、スギ集団葉枯症被害地において出現した木本類を調査し、樹種転換の際の候補樹種を選定することを目的とした。

【方 法】

スギ集団葉枯れ被害地である、東京都日の出町の造林地A（標高 560m）、あきる野市の造林地B（標高 280m）およびあきる野市の造林地C（標高 650m）を調査地とした。各調査地はスギの植栽後 10 年または 11 年経過している。被害地は東または南東向きの斜面であり、土壌はいずれも乾性褐色森林土壌である。2021 年 6 月～9 月にかけて各被害地内に 2 m×2 m のコドラートを 5 つ設定し、プロット内の下層植生における木本の種類および植被率、さらに造林地AおよびBについては各樹種についてプロット内における最大樹高を計測した。

【成果の概要】

1. いずれの調査地においても、ヒノキの実生個体が生育していたため、スギ集団葉枯症被害地におけるスギの樹種転換の際の候補樹種として考えられた（表 1）。
2. 調査地によっては、高木性針葉樹のアカマツおよびモミ（表 1）、高木性広葉樹のアラカシやコナラ、低木性広葉樹としてはアセビが多く生育しており、これらの樹種も樹種転換の際に使用できる可能性がある。

【残された課題・成果の活用・留意点】

今後調査地を増やし、選定した樹種がスギ集団葉枯れ被害地において共通して出現しているか調査する。また、実際に被害地において選定した樹種を植栽し、成長に影響が出ないかを確認する必要がある。

